

子どもたちに「未来を生きる力」を育むために

中野区小学校教育研究会会長 早乙女 通英（緑野小学校 校長）

今の子どもたちが大人になり社会に出る頃には、この世の中はどのようになっているのでしょうか。きっと、私たちの想像よりはるかに技術は進んでいくこととなるでしょう。

令和三年三月に出された東京都教育

施策大綱では「未来の東京に生きる

子どもたちの姿」を、◇自らの個性

や能力を伸ばし、様々な困難を乗り越え、人生を切り拓いていくことができる

◇他者への共感や思いやりを持つとともに、自己を確立し、多様な人々が生きる社会の実現に寄与する

とあります。そのような未来社会に生きる子どもたちに、私たちは「何を」「どう」育ませていけばよいのでしょうか。

令和二年度に小学校学習指導要領が改訂され、今年で三年目となります。今回の学習指導要領では、育成の目指す資質・能力を、①実際の社会や生活に生きて働く「知識及び技能」②未知の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」③学んだことを人生や社会に生かそうと

する「学びに向かう力、人間力等」の三つの柱に整理されました。そして、社会に出てからも学校で学んだことを生かせるよう、三つの力をバランスよく育んでいくことが示されています。

この三つの力を子どもたちに付けさせていくために、授業の方法や技術の改善のみではなく、子どもたちの学びそのものを「主体的・対話的で深い学び」という視点から、改善することになりました。与えられる学びではなく、子どもたち自ら答えを見つけて出す学び、仲間との対話を通して自分の考えを確かなものとする過程や思考を大切にすることが、そのような学びを身に付けることが必要とされています。そのためには、自ら考えるために必要な基礎的、基本的な知識や技術を習得させることはもちろんですが、自分の考えを広げ、深めるために必要な対話をするための力、コミュニケーション能力の育成も大切となります。

仲間と対話をするには、誰もが率直な意見を言い合える場、自由に意見を交換できる環境がなければ成り立ちません。人はそれぞれ考え方がちがいます。考えのちがう人とかかわることは、大変なことでもありません。しかし、これからの社会で生きていく上では、他者とのかわりなナ禍で再確認したこともありません。安心して発言ができる集団、個性を受け入れ、互いを尊重し合える集団を創ることが、すべての土台となります。その基盤となることは、人を「思いやる」ことです。この心も、初めから備わっているものではなく、学んで身に付けるものなのです。歴史小説家の司馬遼太郎氏は、『二十世紀に生きる君たちへ』の中で、「他人の痛みを感じるには訓練がいる」と言っています。それは、相手の痛みを自分のものと感じるには、その心を育てなければならぬ、ということなのです。

このような背景の下、子どもたちに「生きる力」を育てるために、私たちは日々の授業に取り組んでいます。中野区小学校教育研究会（小教研）は、今年で七十三年目となります。長い間、先輩方が受け継いできた大切な研究の場であり、私たち現

役の教員もその環境を次に伝えるという使命感をもって取り組んでいかなければなりません。小教研では「豊かな人間性を育て、児童一人一人を生かす指導」という主題の下、十七の研究部が中野区の子どもたちの力を伸ばすため、毎月研究授業等に励んでおります。

最後になりましたが、中野区教育振興会の皆様には、本研究会の研究活動に、ご理解ご協力をいただき、多大なるご支援を賜っていますことを、心より感謝申し上げます。今後とも、中野区の子どもたちの健全育成のために、また、学校教育と研究活動の充実のために、お力添えをいただきたいと思います。

令和4年度 教育功労者表彰式

今年度は、次のとおり表彰式を開催いたします。

※来賓出席予定

中野区長・区議会議長・
教育長

日時 11月10日（木）

午後4時

会場 中野区役所 7階

第9・10会議室